

平成27年第1回水道事業運営委員会 議事録

日 時：平成27年2月25日（金）午後1時56分～

場 所：石狩市役所 5階 第1委員会室

委員出席者：10名

小笠原 紘一・山田 菊子・藤懸 健・山本 裕子・田守 弘樹・松原 愛子・
土門 隆一・石川 國弘・砂子 タケ子・佐藤 悦子

事務局出席者：11名

及川部長・宮野課長・清野課長・照井主査・佐々木主査・竹瀬主査・泉主査
野宮主査・佐々木主査・伊藤主査・新井田主任

傍 聴 者：なし

議 事：（1）審議事項

石狩新水道ビジョンについて（答申）

（2）報告事項

①石狩市水道事業中期経営計画水道施設処分方針案の策定に係るパブリック
コメントへの意見の提出状況について

②石狩市水道事業中期経営計画の財政収支見込のフォローアップについて

配 布 資 料：別添のとおり

記

【13：56開会】

宮野課長 【開会宣言】

小笠原会長 【会長挨拶】

宮野課長 会議の進行を小笠原会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。
小笠原会長 それでは早速議事次第に則りまして、会議を進めて参ります。最初に、議題の審議
事項にありますように、石狩市新水道ビジョンの最終審議でございます。ビジョンの
案につきまして、事務局から説明お願ひいたします。

野宮主査 水道施設課の野宮です。よろしくお願ひいたします。

前回12月16日の水道事業運営委員会にて、新水道ビジョン（案）についてご指摘い
ただきました箇所について修正をいたしました。事前に送付しております、石狩市新
水道ビジョン（案）修正箇所と、石狩市新水道ビジョン本編をご覧願ひます。この石
狩市新水道ビジョン（案）修正箇所の表にございますとおり、4箇所の修正を行って
おります。

一番目の修正箇所ですが、石狩市新水道ビジョン本編の53ページをお開き願ひます。
「7. 1 実現方策の進め方」表-11の実施スケジュールの中の下から2行目、「市民
との共同訓練」についてですが、平成27年度も実施することといたしましたので、平
成27年度のところ○記号を追加して記入いたしました。

次に二番目の修正箇所ですが、この表の欄外の一番下の※ですが、元の表現は「○

は、単年度で実施」と書いていましたが、「○は、実施年度」と修正しております。

今、ご説明いたしました二点の修正については、本日お手元にお配りしておりますビジョンの概要版にも同じ表がございますので、同様に修正いたしました。

次に三番目の修正箇所についてです。ページが戻ってしまうのですが、36ページをお開きください。6行目、囲みの文章の一番下の行でございますが、「そのための重点的な取り組み目標を」となっていたが、「目標」という言葉を削除いたしまして、「そのための重点的な取り組みを」というふうに修正いたしました。

四番目の修正箇所ですが、37ページでございます。6行目、図-17の表題、「安全で安定した水の供給確保」に向けた目標となっておりますが、この「目標」という言葉を「取り組み」に変更し、「安全で安定した水の供給確保」に向けた取り組みに修正いたしました。

今、ご説明いたしました36ページと37ページの二点の修正は、37ページから40ページまでに記載しております囲みの文章や、図の表題の表現と整合をはかったものでございます。

このことから、ビジョンの内容そのものには影響を与えないことをご理解願います。

以上が修正箇所でございます。

次に、石狩市新水道ビジョン(案)のパブリックコメントについてでございますが、昨年12月25日から本年1月24日まで市民参加手続きによるパブリックコメントを実施いたしました。その結果、パブリックコメントにつきましては、意見は無かったところでございます。

パブリックコメントの報告については以上でございます。

小笠原会長

ありがとうございました。ただいまの修正箇所の説明につきまして、ご質問はございますか。

田守委員

38ページの「5. 2. 3 人材育成と組織力強化」のところで、その下に「水道事業を安定的に持続するためは」というところがございますが、正しくは「するためには」ではないでしょうか。

野宮主査

ご指摘のとおり修正いたします。

小笠原会長

他にご質問ございますか。パブリックコメントについては意見がなかったということでございます。

石狩市新水道ビジョンは昨年8月8日に諮問を受けまして、これまで2度にわたり、審査を続けて参りました。パブリックコメントがあれば、それを踏まえて審議ということになりますが、今回はございませんでしたので、実質的には前回ご議論いただいた中で決めていくこととなります。

もしこの段階で、これで良いということになれば新水道ビジョンを本委員会として承認、確定し、このあと答申となります。

最終的にこのビジョンにつきまして、何かご意見がある方いらっしゃいますか。

特に無いようですので、このビジョンを了承した旨の答申をしたいと思っております。答申案を事務局からお配りいただきますので、それについてご審議をお願いいたします。答申案を読み上げていただけますでしょうか。

野宮主査

【答申案読み上げ】

小笠原会長 ありがとうございます。答申文の内容についてご質問等ございませんでしょうか。この文案で答申したいと考えます。

及川部長 市長は別の公務の都合上、出席が叶いませんでしたので、市長を代理いたしまして、答申を頂戴したいと思います。答申文をご用意いたしますので少々お待ち願います。

小笠原会長 それでは、一旦休憩いたします。

【休憩 14：10～14：15】

小笠原会長 委員会を再開いたします。

宮野課長 準備が整いましたので、石狩市新水道ビジョンについて、小笠原会長より答申をいただきます。

小笠原会長 **【答申書提出】**

宮野課長 及川水道担当部長よりご挨拶申し上げます。

及川部長 ただいま新しい水道ビジョンについて、答申を頂戴いたしました。これまで3回にわたり、熱心なご審議を賜りまして誠にありがとうございます。このビジョンで掲げる「持続」「安全」「強靱」という3つのキーワードのそれぞれに集約された理想像に向かって、各種施策を進めて参ります。

 水道事業については言うまでもなく、益々厳しい経営環境が続いております。今後ともこのような中で、水道ビジョンを定期的に見直しつつ、また市民の水道であるということを忘れることなく、市民目線で経営をして参りたいというふうに考えておりますので、今後とも委員の皆様方におかれましては貴重なご意見、ご指導を引き続きお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

小笠原会長 続きまして、今日の議題の2番目の報告事項に入ります。最初に、「①石狩市水道事業中期経営計画 水道施設処分方針の策定に係るパブリックコメントへの意見の提出状況について」説明願います。

竹瀬主査 水道営業課の竹瀬です。よろしく願いいたします。

 「石狩市水道事業中期経営計画 水道施設処分方針の策定に係るパブリックコメントへの意見の提出状況について」ご報告申し上げます。

 前回の本委員会にてご審議いただきました本件につきまして、平成26年12月25日より本年1月24日までの1ヶ月間、パブリックコメント手続を実施いたしました。意見の提出はございませんでしたので、ここにご報告いたします。

 これにより、前回ご審議いただきました内容で平成27年3月策定ということで今後事務を進めて参りたいと考えております。事務局からは以上でございます。

小笠原会長 ありがとうございます。こちらについてもパブリックコメントの結果、特に意見は無かったということです。次の報告事項「②石狩水道事業中期経営計画の財政収支見込のフォローアップについて」ご報告願います。

竹瀬主査 引き続きご報告いたします。

 「石狩市水道事業中期経営計画（平成25年度～平成28年度）の財政収支見込のフォローアップについて」事務局からご報告申し上げます。資料の1ページをご覧ください。現石狩市水道事業中期経営計画は、平成25年3月に策定しておりますが、策定からまもなく2年を経過しますことから、この度、本計画の財政収支見込を点検する目的でフォローアップを実施いたしました。本計画の計画期間は平成25年度から平成

28年度までの4年間でありますが、策定時は平成24年度決算見込み、平成25年度当初予算及び財政計画をもとに収支計画を策定しましたが、今回は平成25年度決算、平成26年度決算見込み、平成27年度当初予算、平成28年度については平成27年度当初予算をベースに金額の置き換え作業を実施いたしました。

その結果、主な増減内容としましては、3条予算（収益的収支）において、収入としては、給水収益（水道料金収入）が計画期間4年間総額で当初の計画より、2億7,000万円の減、年平均5,175万円減となっております。この要因といたしましては、人口減少等が影響しているものと考えられます。

ここで配布資料の修正をお願いしたいと存じます。収益的収入の給水収益の減の要因としまして、「人口減少や節水意識の高まり」と記載しておりますが、「人口減少等」に修正させていただきたいと考えております。その理由といたしましては、事務局で減の要因について、再度確認しましたところ、人口減が大きな要因であることは、はっきりしておりますが、節水意識の高まりについては、大きな減の要因と特定することが出来なかったことから、適切な表現ではないとの判断により、誠に申し訳ありませんが、修正をさせていただくことといたしました。

続いて、支出についてですが、当別ダムへの水源切り替えに伴い、不要となりました水道施設の除却を本年度実施したことにより、費用である減価償却費が計画期間4年間総額で、当初の計画より1億4,000万円の減となっております。また、委託料が浄配水場の運転管理等業務委託の設計変更による減額等で7,800万円の減となっております。

この結果、水道事業会計の貯金である利益積立金の平成28年度末残高は、当初計画より2,600万円多い5,900万円と見込まれております。平成28年度の純損失は、給水収益の減等から、当初計画より3,000万円多い、1億2,000万円の見込みでございます。

今後においても、引き続き経費節減に努めなければなりません。また、水道料金の定期的な見直しが必要になるものと考えております。

これから平成29年度以降4年間の財政計画策定に向けて、作業に着手することとしております。私からは以上でございます。

小笠原会長

ありがとうございます。財政収支見込のフォローアップについてご説明いただきましたが、何かご質問ございませんでしょうか。

藤懸委員

表-7の財政収支見込についてお聞きいたします。当初計画における収益的収支の平成26年度支出の中で、その他の支出とありますが、見直し後の平成26年度決算見込みのその他支出700万円が3億円まで増えている要因は何でしょうか。

竹瀬主査

不要となった水道施設の除却に伴う費用を計上しているためです。

藤懸委員

わかりました。ありがとうございます。

小笠原会長

他にご質問ございませんでしょうか。

山田副会長

今の除却された施設は、まだ手元にはあるものですか。完全に廃棄されたものではなくて、帳簿上から除却しただけということでしょうか。

宮野課長

現物としてはございます。

山田副会長

まだ施設はあるのに、除却することは可能なのですか。施設は使える状態なのに、

そのタイミングで除却するのは、あまり良くないと見られるのではないかと思いますので、そういうのは問題ないのでしょうか。

宮野課長 実際建物に残っておりますが、使用者が水道サービスを楽しむために稼働している施設ではないことを踏まえ、サービスを生まない施設に係る減価償却費を、水道料金に求めることは望ましくないという判断で、有姿除却という整理をしております。

山田副会長 有姿除却の対象は今後売却も出来ないものということですね。

宮野課長 現在廃止した施設につきましては、建物として残っておりますが、施設処分方針を設け、順次処分をしております。

再利用できるものについては方策を探りながら、会計への影響を鑑みて取り壊し等、処分しなければならないものは順次やっていくというような形にしております。

山田副会長 その処分が決まった時や廃棄費用が発生したタイミングなどで除却できるのではないかと思いますが違うのですか。

宮野課長 本来はそういう形が正しいのかと思いますが、廃止した施設をたくさん抱えているというのが水道会計の現状です。それを除却しようとすると、減価償却を一度に行い、費用化しなくてはなりませんので、結果として水道料金に跳ね返ってきてしまいます。

今回水道の会計基準が見直され、会計の中身を移行するにあたり、財務諸表の整理を行いました。そこで利益剰余金という現金の裏付けのないものが発生いたします。

それを廃止施設の除却、現金を伴わない除却にあてがうことで水道料金への影響を抑えた処理ということで実施しております。

山田副会長 水道料金反映のための配慮と、今ちょうど取り掛かろうとされている新会計基準への対応は企業会計に近いものになると思いますが、そこで求められている透明性とは別の議論だと思うので、除却の方針というのを、水道料金のためにやりましたとおっしゃるのはちょっと違うのかなと思います。

除却の方針はあくまでも会計基準に合わせて行い、水道料金への反映については、また別の議論とするほうが良いのではないかと思います。

小笠原会長 除却の関係は水道だけではなくて、全体を見直したのですか。他の分野でも一発で除却する物の種類によってはいいよというのが出てきています。

及川部長 その部分の通知についてはまだ来ておりません。繰り返しになりますが、ちょうど会計の見直しというのは全国一律で発生している状況でございます。一般会計のほうから繰入金をいただいているところについては、同じような状況で利益剰余金が一時的に発生しております。

本市の場合、水道事業で大体7億円くらいの利益剰余金というのが平成26年の1年間に出てきました。ちょうど利益の部分と廃止のタイミングが合ったので、一度にこの除却の部分に回すことにより、水道料金への影響を極力軽減させるという経営判断ということでご理解いただきたいと思っております。

山田副会長 一括償却ではなくてこれは除却ですね。

及川部長 壊す費用の部分についてはこの部分に入っていないのですが、帳簿上のバランスシートから取り除いたという裁量になります。

山田副会長 除却ではなく、一括償却ではないですか。

小笠原会長 一括していると思います。

山田副会長 除却というのは資産台帳から消すことで、一括償却は費用化を先にやることであり、資産台帳からは消えないことだと思います。除却というと捨ててしまっていて、この先使わなかったり、壊したり、売却したりということですし、一括償却というのは何分割かして費用化していく、本来 10 年間かけてやるところを何かの特例で、このタイミングでやりますということだと思います。一括償却であれば納得できるのですが。除却は廃棄することだと思っておりませんでした。

藤懸委員 みなし欠損みたいな形でなっているのか、3 億円支出されているということではないですね。

小笠原会長 会計の仕方が変わったことによって、このような数字が出てきたということですね。実際に現金が動いたということではないですね。

及川部長 帳簿上のお化けのような利益が会計制度の変更によって、今となって出てきたということなので、これ自体に現金がぶら下がっているものではありません。

経営にプラスになるような扱いは出来ないということで、除却以外についての部分は、利益に残しておいても補填に使えません。その部分については、自己資本金に組み替えるという作業を合わせて行っております。

また、先程の一括償却と除却の違いを次回までに整理いたします。

小笠原会長 その他ご質問ございませんでしょうか。

山本委員 資本的収支の国庫補助金が当初から見直し後でずいぶん増えているのですが、何か要因はございますか。

竹瀬主査 当初策定した後に新たな国庫補助事業が認められましたので、その部分が増額となっております。

小笠原会長 具体的に何か事業をご説明いただけますか。

伊藤主査 ビジョンにもございますが、重要給水施設の耐震化事業です。当初計画に無かったので、その部分を今年度から国庫補助を受けて行っており、当初計画には含まれておりませんでした。見直し後に事業費、国庫補助金を含めて反映させていただいております。

及川部長 当初は、配水場や浄水場の耐震化を想定して国庫補助金を組んでいたのですが、その後、重要給水施設をつなぐ管路についての耐震化が国庫補助事業として認められるようになったので、その部分が増加になったということでございます。

山本委員 ありがとうございます。

小笠原会長 他にございませんか。

無ければ私のほうからお伺いいたします。先程の収益的収入の説明の中で、収入が 2 億 700 万円減の要因として人口減少等とおっしゃっていましたが、当初見込みより人口の減少が大きかったということでしょうか。

宮野課長 人口減少のスピードが速まっているというふうに考えております。

小笠原会長 これから見込みを立てるときは大変ですね。「等」と括っているのですが、何か事例はありますか。

宮野課長 給水収益が減っているという 1 つの大きな要因は、有収水量が減っているということですが、有収水量の減り具合と人口の減少部分と照らし合わせても説明がつきにく

い水量の減というのがございます。それが何かということを検証、確認してみました。が、天候の関連や、前年度に比べて日照時間、降雨量の変化によって使用水量が減ったのかなという要素を確認いたしました。他に考えられるものとしては、節水意識というのも要因の一つとして考えたところであります。

節水意識または天候という特定したのものとして、水量の減という説明ができません。

人口の減少も含めて、天候や節水意識などが複雑に絡み合って減少の要因となっているのかなと思っております。

小笠原会長

そうであれば、1人当たりの水使用原単位というのも小さくなっているのですか。

通常1人当たりという出し方よりも、給水の契約1件ごとの平均水量を出しているものがあるのですが、その水量自体が以前は1ヶ月14トン程度平均だったのが、徐々に落ちてきているというのは、数字を検証して分かっております。

1件の契約の中身が世帯の人数自体に変化があったのか、同じ世帯の人数でありながら、使っている量が減っているのかは確認できません。平均的なことしかわからないと思いますが、1戸あたりの世帯人員というのは国勢調査の時ではないと分かりませんか。

宮野課長

厚生労働省の国民生活基礎調査というのがあったと思うのですが、その中では人口の動態と世帯数、世帯構成人員の項目がありまして、調査が毎年行われております。その調査の結果から、世帯自体の数は増えておりますが、世帯構成の人数自体は減っていることが分かっております。

小笠原会長

石狩市内でも何かそのような動きがあるのかもしれませんがね。いずれにしても、これから人口減少や有収水量がトータルで減っていくといったことになると、次のビジョンやこれから運営していく中でそのあたりを解析していかないと、状況として厳しいですね。大変かもしれませんがお願いしたいと思っております。

田守委員

仮に夫婦のどちらかが亡くなり、単身で生活していると、特に男性の高齢者の方ですと料理やお風呂など、あまり水を使わないと思っております。また、石狩市においては、水を使用する頻度が比較的高い若い人が札幌へ引越してしまい、水をあまり使わない人が残っている状態であります。

最近ではスポーツジムのお風呂に入るなど、施設を利用して水を使用することがあり、家で水を使う機会が減っているのも1つの要因かなという気がします。

今後詳細を調べるのであれば、年齢別、性別も調べるとより正確なものが見つかるのではないかと思います。

砂子委員

なぜ減ってきているのかの要因は中々分かりにくいと思っております。なので、意識調査や節水意識などのデータやアンケート調査を実施すると良いと思っております。

小笠原会長

田守委員と砂子委員からの意見は大変重要だと思います。そういったことも踏まえて使用水量がなぜ減ってきているのか、今後どのようにしたらいいのか、ということをご検討願えればいいのかと思っております。

及川部長

次期中期経営計画が平成29年からのスタートになるわけですが、その素案を平成27年度である程度作りたいと考えております。そのような中で、調査の一環として、アンケート調査というものも踏まえた上で、どういう世帯でどのように水の使い方をしているのかということも含めて、あるいは今の料金のあり方なども含めて

一度調査をしたいと考えておりますので、その時になりましたら委員会のほうにご報告した上で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

藤懸委員

2点ございまして、新水道ビジョンの中で28ページ「4. 将来の事業環境」の「4. 1 外的環境」のグラフで、以前この委員会の中で、「行政区域内の人口が減っていきませんが、使用水量も下がるだろうということ予測は出来ないのか」ということをお話しさせていただきました。なかなか簡単に出来ない部分がありますが、アンケート調査をしないと分からないこともあると思います。

もう1点は節水意識というよりも水道料金が高いということです。人口減少もそうですが、水道料金に関わるような節水意識というのは確実に働いているかと思っておりますので、ビジョンの中でも述べております人口の減少だけではなく、アンケートを取った上で使用水量の増減を予測することも大事であると思っております。ほとんどの都市もそのように将来の需要量を推測する対応はしているので、石狩市もこのようにやったほうが良いと思っております。

砂子委員

田守委員もおっしゃったように、年齢も関係あると思っております。私の家は2世帯で高校生など子供が3人おります。朝シャワーを浴びて夜も浴びてというように水をかなり使用している状態です。ですので、人口だけではなく、年齢別も関係していると考えられますので、それも貴重なデータになるのではないかと思います。

佐藤委員

主婦の立場から言わせていただきますと、水道料金が上がってからは、節約するようになりました。そういうところで使用量は減っていったのかなというふうを考えられます。

小笠原会長

調査するとすれば大変な調査で、全国的にも詳細調査というのはなかなか行われておりません。どこかの市で昔取った十数年前のデータを参考にしたり、それも難しいのでおやりになっていないところが多いと思っております。もし行うとすると、大変な作業になるかと思っておりますが、是非ご検討をお願いしたと思っております。

及川部長

実施はなかなか難しいと思っております。色々な要素が複雑に絡み合っており、それを紐解いてトレンドをのばすというような作業をすると、かなり誤差も増幅されます。その辺のバランスというのはざっくりしたものが良いのか、詳細な部分を積み上げたほうがよいのか、という部分は選択がなかなか難しいところでもあります。

そういったアンケート調査を通じてどのような状況になっているのか、という部分については色々な要素があるということを確認する意味で実施させていただきたいというふうを考えております。

小笠原会長

他にございませんか。

山田副会長

新会計基準に移行するということでバランスシートも作っているとおっしゃっていたのですが、管路や水道施設の固定資産の総額はどれくらいあるものなのでしょうか。

宮野課長

144億9,216万4千円です。

山田副会長

これは固定資産ではなく未収金等を含んだ資産総額ですか。

宮野課長

固定資産だけです。

小笠原会長

減価償却費が計画期間4年間総額で当初見込みより1億4000万円ほど減っていますが、償却の仕方が変わったなどの要因があったのですか。

竹瀬主査 固定資産の除却を行いましたので、その年以降の減価償却費が減額になったということでございます。

小笠原会長 今お配りいただいた資料ですが、これは水道担当者の方から出された、委員会資料ということでしょうか。

宮野課長 今回の委員会に提出するための資料です。

小笠原会長 その他ご質問等ございませんか。無いようですので、議題はこれで終わらせていただきます。今日の日程の4. その他ということですが、事務局から何かありましたらお願いいたします。

竹瀬主査 事務局からご連絡いたします。本日の会議録の署名委員ですが、松原委員と佐藤委員にお願いしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

続きまして、次回の水道事業運営委員会の日程の件であります。本年夏頃に、水道事業会計の決算の報告とその内容について開催したいと考えております。開催日程につきましては別途皆様と調整させていただき、決定いたしますのでよろしくお願いいたします。

小笠原会長 次回は夏頃に決算についての委員会を開催したいということでございますので、よろしくお願いいたします。それではこれで今日の日程は終了したいと思います。何か全体を通じてご質問、ご意見等ありますでしょうか。

それではこれで委員会を終了いたします。ありがとうございました。

【14：52終了】

平成27年6月30日議事録確定

石狩市水道事業運営委員会

会長 小笠原 紘一

議事録署名委員

松原 愛子

議事録署名委員

佐藤 悦子
